

# アイエヌライン

# 営業強化し全国へ拠点

アイエヌライン(奈賀幾次郎社長、福岡県古賀町)は7月、九州全域から関東方面への中継拠点機能を持つ、神戸営業所(神戸市東灘区)を開設する。埼玉原日高市で2月にオープンした埼玉営業所に続き、全国ネットワークの整備を加速させる。

奈賀社長(47)は「既存の顧客との関係性を深める『深耕営業』の強化を図りながら、新規需要の開拓を推し進める。今後、東北や北海道への全国の拠点整備を目指す」と拠点構想を描いている。

人材確保と育成、能力開発は最重要経営課題の一つ。「4月に機構改革、人事制度の一部を見直した。社員と一緒に共通目標に向かって前進していく。キャリアアッププランを打ち出し、『やりがい、働きがい、生きがい』のある職場環境にしたい」

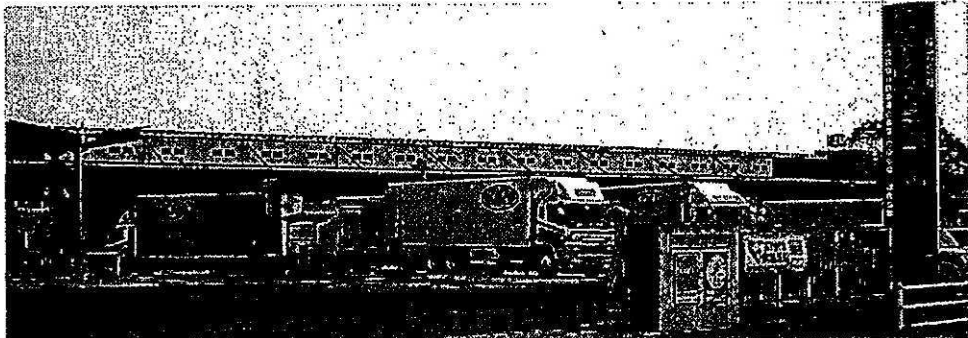
更に、「安全・品質は我が社の商品。これ無くして企業の発展、永続は無い」と強調。今年1月、7期目の「2015年 運輸安全マネジメント」をスタートさせ、交通事故・労働災害ゼロに乗り出している。

安全推進委員会(塩田英三委員長)を中心に各チームが目標達成に向け、全員参加による安全会議(月例)を開く。経営トップが率先して安全推進活動に取り組み、若手社員やドライバーも委員会に参加する。

「創業以来、苦難の年もあったが、今期はいいスタートを切れた。ただ、昨年1年間に軽微な事故があったことは反省しなければならぬ。安全活動に限界は無い。社員と家族が悲しむことがあってはならない。待遇改善を含めて、魅力ある職場を形成したい」と、企業の社会的責任(CSR)、労働環境の整備に力

光本陽太の付一倉庫  
太陽光発電  
960枚の付一倉庫  
960枚の付一倉庫  
根ルをセ  
屋根にルをセ  
社物流

## 今年には埼玉・神戸に新設



# 人材確保と育成が課題

東九州自動車道の豊前インターチェンジ(IC)と、宇佐ICの開通を控えた2月13日、南海トラフ巨大地震発生を想定し、豊前IC付近で実施された福岡、大分、宮崎、鹿児島各県警の合同交通対策訓練に参加した。東九州道の開通は、その沿線の古賀町に本社を置く同社にとって期待が大きき、物流への効果は計り知れない。地域社会と一体となった事業経営を推進していく。

全社的に、安全性優良事業所認定(Gマーク)取得を推進中。本社事務所では5人の運行管理者が交代制で夜間常駐の「24時間点呼」を実施している。全車両にドライブレコーダー、デジタルタコグラフ、インターロック機能を搭載し、ドライバーとは携帯電話を活用したアルコール検知システムを駆使する。

自動車部品、食品、飲料、工業製品などの輸送や保管、流通加工を手掛け、14年10月期は、売上高34億円を計上。現在では、本社、北九州、佐賀、長崎、大分、熊本、大阪、埼玉に営業所を設ける。

環境保全対策では、3年前から太陽光発電事業に参加。物流センター倉庫(建築面積3300平方メートル)の屋根に960枚の太陽光パネルを取り付け、最大出力150キロワット、年間発電量は16万4250キロワット時を確保し、売電収入は年間当たり700万円に上る。大分銀行引き受けの「エコ私募債」「カーボン・オフセットエコ私募債」を発行している。

(武原顕)